

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 2 月 9 日

会社名 株式会社 大戸屋

(JASDAQ・コード番号：2705)

(URL <http://www.ootoya.com/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 三森 久実

TEL：(03) 5206-7500

責任者役職・氏名 経営企画部長 濱田 寛明

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
 ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
 (内容) 連結(新規) 一社 (除外) 1社 持分法(新規) 一社 (除外) 一社

2. 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(百万円未満切捨)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19 年 3 月期第 3 四半期	12,073 (6.8)	512 (△1.4)	497 (△2.5)	210 (268.4)
18 年 3 月期第 3 四半期	11,308 (11.9)	519 (305.4)	509 (339.1)	57 (37.6)
(参考)18 年 3 月期	15,041 (10.6)	692 (187.6)	678 (199.8)	38 (△62.2)

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益
	円 銭	円 銭
19 年 3 月期第 3 四半期	41 29	— —
18 年 3 月期第 3 四半期	11 20	— —
(参考)18 年 3 月期	△0 28	— —

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、前年同四半期に対する増減率であります。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期におけるわが国経済は、個人消費にやや弱さが見られたものの、企業収益の改善を背景とした設備投資が好調に推移し、また、雇用情勢にも改善の兆しが見られ、景気は緩やかな拡大基調にありました。一方、外食産業におきましては、市場規模が縮小する中であって、企業間競争の激化や中食市場との競合等、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、「店内調理による高品質な商品提供」により、顧客満足度の向上を図りつつ、国内既存店舗の活性化、フランチャイズ事業の拡大、並びに、海外における事業展開に鋭意取り組んで参りました。

事業の種類別セグメントの当第 3 四半期における業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

飲食事業におきましては、12 月に実施いたしました「大戸屋ごはん処」のグランドメニュー改定において、徹底的に素材にこだわり、安全・安心で付加価値の高い商品提供を目指し、顧客満足度の更なる向上を図って参りました。

店舗展開につきましては、「大戸屋ごはん処」直営店 2 店舗（イオン札幌発寒ショッピングセンター一店、札幌北 2 条駅前通り店）を新規に出店する一方、直営店 1 店舗（下北沢店）を閉店しております。また、フランチャイズ（FC）店 1 店舗（名古屋栄店）を直営店舗として譲り受ける一方、直営店 1 店舗（三鷹南口店）を FC へ譲渡したため、当第 3 四半期末の飲食事業における稼働店舗数は「大戸屋ごはん処」125 店舗、「おとや厨房」2 店舗、「おとや」1 店舗、並びに、連結子会社 OOTOYA (THAILAND) CO., LTD. における 3 店舗と台湾大戸屋股份有限公司における 2 店舗の総計 133 店舗となりました。

この結果、飲食事業の当第 3 四半期における売上高は 10,203 百万円（前年同期比 2.3%増）となりました。

② フランチャイズ事業

フランチャイズ事業におきましては、「大戸屋ごはん処」5店舗（金沢松村店、呉広店、宇部昭和町店、八戸ニュータウン店、三田店）を新規に出店し、また、上述の通り、直営店への譲渡1店舗と直営店からの譲受1店舗があり、当第3四半期末のフランチャイズ事業における稼働店舗数は「大戸屋ごはん処」58店舗となりました。

この結果、フランチャイズ事業の当第3四半期における売上高は1,869百万円（前年同期比39.9%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期の連結業績につきましては、売上高は12,073百万円（前年同期比6.8%増）となりましたが、10～12月における国内既存店舗の売上高が前年同期比で97.7%と低調に推移したことによる売上総利益の減少が影響し、営業利益は512百万円（同1.4%減）、経常利益は497百万円（同2.5%減）と前年同期を下回る結果となり、四半期純利益につきましては210百万円（同268.4%増【但し、前年同期は減損損失400百万円を特別損失に計上したことが四半期純利益減少の主な要因であります。】）と前年同期を大きく上回る結果となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

（百万円未満切捨）

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	6,608	2,105	27.6	357 85
18年3月期第3四半期	6,102	1,752	28.7	343 59
(参考)18年3月期	5,995	1,735	28.9	332 38

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期末の財政状態につきましては、総資産6,608百万円（前連結会計年度末比613百万円増加）、負債4,503百万円（同285百万円増加）、純資産2,105百万円（同328百万円増加【なお、前連結会計年度の金額は、資本合計に少数株主持分を加算した金額と比較しております。】）となりました。

[参 考]

平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（百万円未満切捨）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	16,400	722	288

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 56円47銭

[業績予想に関する定性的情報等]

平成18年11月17日の中間決算発表時に公表いたしました、平成19年3月期の通期の連結業績予想は上記のとおりであり、現時点では本業績予想に変更はありません。

なお、上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上